

サウジアラビア紅海沿岸ハウラー遺跡の考古学調査(2020)

—中世の港町の構造を探る—

長谷川 奏 早稲田大学・東日本国際大学客員教授
 徳永 里砂 アラブ・イスラーム学院研究員・金沢大学客員研究員
 西本 真一 日本工業大学建築学科教授
 恵多谷雅弘 東海大学情報技術センター研究員・事務長
 藤井 純夫 金沢大学特任教授

Archaeological Research at al-Hawra', Red Sea Coast of Saudi Arabia (2020): Survey on the Site Plan of the Medieval Port

HASEGAWA, So Visiting Professor, Waseda University and Higashi Nippon International University
 TOKUNAGA, Risa Researcher, Arabic Islamic Institute in Tokyo and Visiting Researcher, Kanazawa University
 NISHIMOTO, Shin-ichi Professor, Nippon Institute of Technology
 ETAYA, Masahiro Researcher and Bureau Chief, Tokai University Research and Information Center
 FUJII, Sumio Specially Appointed Professor, Kanazawa University

長谷川
奏
ほか

1. はじめに

本報告では、サウジアラビアと日本の合同調査隊による紅海沿岸のハウラー(al-Hawra') 遺跡調査(2020/2-3)の成果を記す。私たちの研究対象地区は、イスラーム以前よりジュハイナ族の領域であった。ハウラーは、9世紀以後にはエジプトからの巡礼路上の港町として頭角を現し、内陸のワーディー・アル＝クラーの諸都市の港として機能し、ハイバルの港とも記述された。12世紀半ば頃までハウラーは命脈を保ったようであるが、ヤークート(d.13C.)の記述等からは、13世紀前半には廃墟と化したことが窺われる。そこで、私たちは、この遺跡調査を始めるにあたって、海洋から山間(砂漠)を経てヒトやモノが通ったネットワークの実態を解明するために、ハウラーの港町に加え、遺跡のある小湾の後背部を通る巡礼路との総合考察を行っている(図1)。

2. ハウラー遺跡調査

ハウラー遺跡は、タブーク州ウムルジュの10 kmほど北に位置し、南北に2 km、東西に0.5~1.0 km程度の広がりを持つ。1980年代に在地の考古学研究者によって部分的な試掘調査が行われたが、基本的には未調査の遺跡である。遺跡は港域と集落域に分化され、このうち集落域(House 1~4)は、東西300 m、南北150 mほどの規模を測る(図2)。上部構造は既に失わ

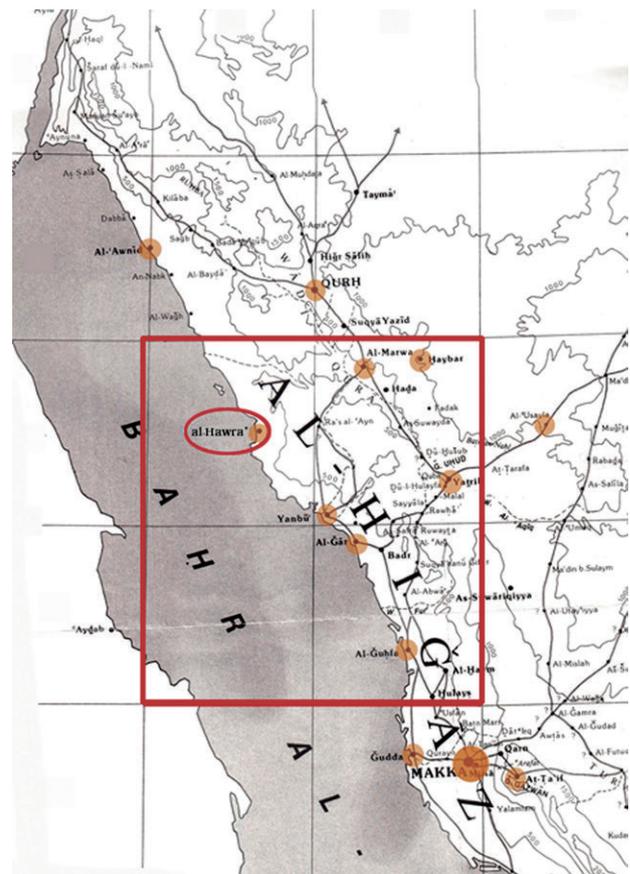


図1 研究対象地区周辺の都市分布

れているが、分布する遺構の多くは、火山岩や珊瑚ブロックが用いられている。集落の一角には、1980年代の試掘調査でモスクと推測される遺構もみつかって



図5 砦遺構北側部分の発掘終了風景



図6 集落(House1)南端の壁体残存状況



図7 キッチン遺構の発掘終了風景

の基礎部分がみられたが、壁体②の軸線は、壁体①とはやや異なるため、別の家屋とも考えられる(図6)。この壁体②の東側に広がるダツカ(生活面)では、壁体③に接して、2.8×2.6 mほどの規模の小部屋が見つかった。この小部屋では、床面のモルタルが破壊を免れて大部分が残存し、部屋の中央近くには、土器を用いたため土面の盛り上がる炉がみられた。また壁体③には、排水溝の痕跡がみられたことから、総じて、この空間はキッチンであった可能性がある(図7)。この



図8 ワーディー・アルムライリーフ遠景



図9 ハラード地区の碑文とペトログリフ

キッチン周りの床面からは、多数の石製すり石がみつまっている。壁体②の南側のダツカ上からは、9~12世紀に位置づけられると思われるアルカリ釉(青緑釉)の完形の碗が見つかった。

3. 後背地調査

さて、最後に、後背地調査の成果を報告する。後背地調査ではハウラーの内陸ネットワークを明らかにすべく、主に後背地の山谷に残された碑文(グラフィティ)やペトログリフなどを記録している。今期は、現地インフォーマントからの情報に加え、衛星画像を用いたりモートセンシングによる地形・岩質分析に基づく新たな碑文及びペトログリフ・サイトの探索を試みた。今期はウムルジュの東南東およそ65 kmの溶岩原の周辺地域と、ウムルジュから南南東方向におよそ50 kmに亘って連なる山地(図8)を中心に計27地点(再調査地点3箇所を含む)の調査を行い、古代遊牧民による古代北アラビア文字碑文43点、初期イス

ラーム時代のアラビア文字碑文46点と多数のペトログリフを新たに登録した(図9)。これらのうち、計62点の碑文(古代北アラビア文字碑文21点、アラビア文字碑文41点)及び大半のペトログリフが衛星画像解析による有望地点及びその周辺の9地点で発見された。碑文探索のためのリモートセンシング技術の利用は、管見の限り初めての試みであったが、今回の調査でその有効性が確認されたと言えよう。

4. おわりに

上記が、2020年2~3月に行ったハウラー遺跡調査の概要である。次期調査では、移動ネットワークの構造と港町の都市構造がより明確になることを期待して、研究を推し進めたい。

■参考文献

(欧文文献)

・ Blue, L., J. Cooper, R. Thomas and J. Whitewright (eds.) 2009 *Connected Hinterlands: Proceeding of Red Sea Project IV*, Soci-

ety for Arabian Studies Monograph No. 8, Southampton.

- ・ Damgaard, K. 2009 "A Palestinian Red Sea Port on the Egyptian Road to Arabia: Early Islamic Aqaba at and its many hinterlands" in Blue et al. (eds.), *op.cit.*, pp. 85-97.
 - ・ al-Ghabbân, Ali Ibrâhim, *Les deux routes syrienne et égyptienne de pèlerinage au nord-ouest de l'Arabie Saoudite*, Le Caire, 2011.
 - ・ Hasegawa, S., R. Tokunaga, S. Nishimoto and Abdulaziz Alorini 2019 "A New Perspective on the Site Plan of al-Hawrâ', a Medieval Port on Saudi Arabia's Red Sea Coast" The 53rd Seminar for Arabian Studies, University of Leiden, 11th-13th July 2019 (poster).
 - ・ Power, T. 2009 "The Expansion of Muslim Commerce in the Red Sea Basin, c. AD 833-969" in Blue et al. (eds.) *op.cit.*, pp. 111-118.
 - ・ Power, T. 2012 *The Red Sea from Byzantium to the Caliphate AD 500-1000*, Cairo.
 - ・ Sidebotham, S. E., M. Hence and H. M. Nouwens 2008 *The Red Land: The Illustrated Archaeology of Egypt's Eastern Desert*, Cairo.
- (アラビア語文献)
- ・ al-Idrisî, *Kitâb nuzhat al-mushtâq fî ikhtirâq al-âfâq*, Cairo, 1990.
 - ・ al-Muqaddasî, *Al-îsan al-taqâsim fî ma'rifat al-aqâlîm*, Damascus, 1963.
 - ・ Yâqût, *Mu'jam al-buldân*, Beirut, vol.2, 2010.